

「肺癌術後再発症例の治療と予後に関する多施設共同 前向きコホート観察研究」について

1. この調査について

この調査は、非小細胞肺癌で手術を受けた後に再発と診断された方を対象に、病状と治療経過を追跡する調査です。

2. この調査の目的

非小細胞肺癌術後の再発に対する治療に関しては、現在、肺癌診療ガイドライン（日本肺癌学会編 2005 年度版）に記載はなく、IIIB 期や IV 期と同じ治療をされているのが現状です。しかし、術後再発と IIIB・IV 期の肺癌とは同じではありません。

これまで、治療に関する成績報告は少なく、さらに報告の多くは海外の 1 つの病院によるものであり、一般的なものではありません。一方で、近年新たに開発された抗癌剤の登場や新しい検査（分子マーカー）の導入により、再発後の治療法もこの数年で大きく変貌しつつあります。

従って、術後再発に対する今後の適切な治療選択を検討するうえで、現行の診療に関する複数の病院間でのデータの収集と評価が必要と考えられます。